



多くのつながりは、望む生活実現の第1歩

7/25 金

1部19:00~20:00 (無料)
2部20:30~22:00 (会費あり)

みらいサポ

主催：みらいサポ実行委員会

会場：1部 テルサ中会議室・2部 当日お伝えします。

1部

障がい福祉と介護保険の
相談業務従事者のトークセッション

“人”を支援する ということ

清水東地域包括支援センター
管理者 川浪 奈央子様

ふくしま基幹相談支援センター
所長 秦 様

2部

のみサポ

気軽な環境できずなを深めましょう！

場所：当日発表
参加費：3500円

参加申し込み

事業所名

代表者名

参加人数

名

1部のみ参加・2部のみ参加・両方参加 (締切は5月19日)

申込先：みらいサポ事務局 024-563-7653

5月28日（金）にテルサ中会議室にて、5月期のみらいサポを開催いたしました。今回は、むつみ脳神経・耳鼻科クリニックの渡邊 多佳子先生に「人を支援するということ」をテーマにお話をいただきました。

当日は、70名を超える参加者が、日頃、なかなか聞けない多佳子先生の想いや原点ともなるお話を聞くことができました。

はじめに、多佳子先生が影響を受けた人物の書籍から自分の現状を見つめなおしたとき、診察時にかかる時間のこと、ルールを守れない患者さんに対する対応の考え方、思うように治療が進まない方への考え方訪問診療の患者への対応の考え方など多佳子先生の理念となっているのが一人一人に向き合っていくことなど自分として大事にしていること以上に迷ったときに助言をくれる人、支援するときにかかわってくれる周囲の人々を大切に思っていることが、すごく伝わってきました。その思いが周囲にも伝わって今回の参加人数にも見えるように、多佳子先生のもとには人の輪ができるのだと感じました。



みらいサポが考える顔の見える関係性

A, 顔の見えるつながりづくり

なぜ、顔の見えるつながりが必要か？

◆ 日常的な支援の中で起きる具体例をもとに必要性を説明

① 選択肢

例) 68歳の認知症の方の進行防止と介護負担軽減のための
日中活動を選ぶとき

ピースの数（相談業務は数で決まる）



ハートのような私の生活



食事や排せつなどの日常生活動作や活動など、その行為や出来事などのピースで生活が成立している。加齢や病気でできなくなった部分のピースをサービスやサポートで埋めていき、元の「ハートのような生活」を取り戻していくすべて埋まらなくても、なんとなく「ハート」とわかる。